

検討資料3) 小規模校のメリット・デメリット

(1) 教育(学習)上の視点(こどもたちについて)

	メリット	デメリット
学習	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒の一人一人に目が届きやすく、児童生徒の個性や能力に応じたきめ細やかな指導が受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●少人数の為、学習面においても評価が固定化されやすく1学年1学級の場合、ともに努力してより良い集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。 ●運動会や学芸発表会などの学校行事においては、少人数のため種目や演目に限界があり、行事としてのダイナミックさに欠ける。 ●少人数のため、友人の様々な考え方に触れ、自他を比較し、自分の考えを見つめなおし、考えを深めたり高めたりする、個と集団の学びあいが十分に行なわれない。 ●1学年1学級の場合などは、卒業するまで同一学級で過ごすため、子どもの役割が固定しがちで、学習活動など、学校生活に活気が生まれにくい場合がある。
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒・教員・保護者を含めて互いの結びつきが深くなり家庭的な人間関係を形成しやすい。 ●他学年との交流がしやすいため、互いを思いやる気持ちが育つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒の交流が限られたものになるため、交友関係が固定され、適度な刺激や切磋琢磨が少ない。 ●小規模化が進むと、効果的なクラス替ができない為、生活面において人間関係が固定化し、友人が増えないなど自己形成に必要な集団生活が十分にできない。 ●友人関係にトラブルがおきると後々まで影響が残る。 ●少人数の教員とのかかわりに限られるため、多様な価値観が育ちににくい。
施設・教材	<ul style="list-style-type: none"> ●少人数のため、教材・教具の一人あたりの割り当てが多い。 ●体育館、特別教室等を必要に応じて十分利用することができる。 ●施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●デメリットについて、特に意見はなかった。
部活動	<ul style="list-style-type: none"> ●クラブ活動、部活動等において、児童・生徒一人一人の個別の活動機会や活躍の場が得られやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●少人数のため、子ども達の興味、関心に対応できる多様なクラブ活動、部活動が成立しない。

(2) 学校運営上の視点(教員にとって)

	メリット	デメリット
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ●個々の児童・生徒の個性や特性に対応したきめ細かい指導をすることができる。 ●教材・教具を十分活用した学習方法を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教員数が少ないため、教員同士が指導の面で相談を行なうことや教科研究を十分に行なうことができない。中学校では、教科担任を専属で配置できない教科が発生するなど教育活動での課題が生じる。 ●複数の教員の目で多様に子どもをとらえることができないため、特性等の把握が一面的になりやすく、児童生徒の新しい可能性や能力の発揮を阻害する場合がある。 ●児童生徒の様々な現われを多面的に分析した生徒指導ができにくく、画一的な指導になってしまう。
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ●意思疎通がしやすく、全校一体となった指導がしやすい。 ●学校全体の業務を考えての指導協力体制がとりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●校務分掌(事務処理)の内容や量は、学校の規模による差異が少ないため、少数教員の一人当たりの負担が増える。 ●組織的な体制が組みにくく、指導方法に制約が生じやすい。 ●教科担任制においては、担当教員が多学年の授業を受け持つことになり、教材研究等が困難になりがちである。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ●災害発生時に、混雑が生じにくく、子どもの把握がしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校などでは、教員数が少ないため、登下校時の安全指導等に支障が生じる場合がある。

※前回(H21年度)「今治市通学区域調整審議会での答申参考資料」を基に今治市教育委員会事務局にて作成